

長田下地域自治 振興会だより 第39号

2022年(令和4年)3月24日発行

2021(令和3)年度 長田下地域自治振興会の活動紹介

○縄文の池およびアジサイ園の環境整備

振興会役員・地域の有志の方・ひとは福祉会の人たちの協力を得て、縄文の池の中の草刈り・アジサイ園垣根周辺の整備(4月6日)をし、アジサイ30個の植え付け(4月23日)を行いました。さらに、縄文の池・アジサイ園の中の草刈りをして菖蒲の球根植え付け(6月24日)をしました。有志の方・ひとは福祉会のみなさん、ご協力頂きありがとうございました。



アジサイ30個植え付け



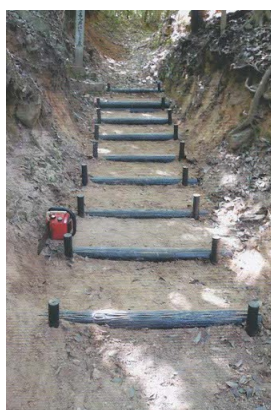
垣根周辺の整備



菖蒲の球根植え付け

○尼子三兄弟ゆかりの墓参道維持活動

振興会役員・地域の有志の方の協力を得て、歩き難かった参道に擬木丸太・擬木杭を使用して、参道の維持活動(7月24日、26日、31日、8月29日)を行いました。歩き易くなったので訪れてみてください。有志の方々、暑い中、何日もご協力頂きありがとうございました。



参道(上)



参道(中)



参道(下)

○土嚢づくり(6月26日)

今年も、振興会役員で土嚢を作りました。下長田集会所グラウンド端に置いてありますので、必要な時は使用してください。

○敬老事業の実施(9月20日)

75歳以上の方(91名)に、振興会役員が手分けして、敬老お祝い品(商品券)をお届けしました。これからも、どうぞお元気にお過ごしください。

(K. M)

「新春夢」考)「若い人の思いを育む地域へ」

この「新型コロナ」の災厄で世情は暗いですが、その奥では、また新しい動きも起きているようです。この地域でもそうしたことを起こし始めた人がいます。すでに「振興会だより(第38号)」で紹介した、5区の田中陽可さんと福岡奈織さん、7区下のカタクタン・ジェスンさんと矢野智美さん達です。

ものごとを変える契機を作るのは「新しい目」で地域を見直す人であると言われるように、なるほど、この地に長く住んでいる者からすると、地域の日常に変化を見いだすことはできにくいのですが、この人たちのような若い新しい定住者の目で見ると、ここの地にも新たな可能性が見いだされることのようにです。

これまでは、「その地域の財」とは、「地の利」とか「大きな資本」など政治的な後押しや経済的な保証が重要と言われてきましたが、「人とのつながり」や「相互援助力」など文化的なものも「財」であるとする見方もあります。「もの」が人を支えることは否定できませんが、それでも最後に人を救うのは「和顔愛語」のような心情を持つ人々の集まりだと思われまます。有名なのは、あのアジア内陸の小国ブータンの「国民総福祉」という「人と人とのつながり」を大切にする考え方です。地の利や資本と言う物差しだけでは、生活の充実は図れないということでしょうか。

幸い、この地域の住民である私達には、これまで先達の様々な取り組みにより、「地域力」としての支援の思いやサポート力を持ちあわせていますので、こうした若い人の思いと実践を育む「心の財の豊かな地域」になれそうだなとの希望を持った新年を迎えました。(T.K)

(左下写真) 田中さんの「イニアビ農園」(自然栽培とその作物販売)

(右下写真) 矢野さんの「ファーマーズ・プラス」(農の挑戦グループ) 結成

「ファーマーズ・プラス研修」と「さつまいも収穫体験」



「自然栽培講習とその作物」



『長田下地域の文化財保護と伝承』について考える③

今回は、家庭の倉庫などに眠っている生活用具（民具）について考えてみたいと思います。

昔の人々が使っていた生活用具を「文化財」と言っているのか。疑問に思ったので、安芸高田市の専門の方に聞いてみると、これらは「民俗文化財」とか、「生活文化の資料」「民俗資料」などと言うそうです。この話を聞き、先祖の人たちが使っていた生活用具も、大切な「文化財」の仲間だということがわかりました。

さて、昨年から今年にかけて、わたしたちの周りにも、新型コロナウイルスの感染が広がり始め、自分の身の安全を考えて、外出も控えてしまいました。ふと思いついたのが、長年、片付けも掃除もしていなかった農具小屋を整理しようと思い立ち、少しずつ片付けていきました。すると、奥の方から、祖父母や両親が使っていた記憶のある生活用具がいろいろと出てきました。

下の写真を見ていただくと、わかるように、初めに、小さな木製の「てみ（手箕）」が見つかりました。一般には竹製の手箕が多かったように思います。現在は、プラスチック製品に代わりました。次に、一本の木の幹をけずっただけの大小の木槌（きづち）が出てきました。この大きな槌は、豆などをこなす（皮と実をわける）ときに使います。それから、「おいこ（背負い子）」もいろいろと出てきました。おいこは、土などを運ぶ小型のもの（高さ40cm）や、藁や落ち葉などを運ぶ大型のもの（高さ55cm）、骨組みだけのものも見つかりました。そのほか、「木おいこ」や竹製のくまで（熊手）なども出てきました。

私たちの先祖は、身近な木や竹などを使って、必要な生活用具を自分たちの手で、しかも精密に作っていたのだなと、とても心打たれました。



木おいこ



木製の手箕



土おいこ



木づち



竹製の手箕



木組みだけのおいこ



竹の熊手と大きなシャモジ

長田神社のこと

新型コロナウイルス感染のため、ずっと続けてきた7月の祭り（獅子舞）や9月の例大祭も、ここ2年行われませんでした。少人数で11月の新嘗祭と1月の元旦祭はなんとか行われましたが、このままでは、祭りが無くなってしまわないかと不安になりました。

ただ今回、氏子の皆さんから寄付をつのり、入り口の石垣と4つの石燈籠を補修する事が出来ました。長い間、壊れたままになっていた石垣、ちょっとしたことで倒れるのではと心配していた石燈籠が、写真のようにとてもきれいになりました。

もう1枚の写真は、雪止め用瓦の所から草が生えているものです。草の生えた下から雨水がしみ出しているそうです。雪止め用の瓦を普通の瓦に交換したらという話も出てきています。

この瓦の事だけでなく、いろいろ直さないといけない所があるそうです。一度、氏子の皆さんで、これからどうするのかについて話し合わなければと思いました。（Y. H）



石垣の補修状況



石燈籠の補修状況



雪止め用瓦の所の草が生えている状況

長田下地域自治振興会からのお願い

資源ごみとして、広告チラシ・封筒等を出して頂く際は、ビニール部分は切り取って頂きますようお願いいたします。
(ごみの分け方・出し方[向原町]参照)



発行： 長田下地域自治振興会

担当： 広報委員会、企画調整部